



エクストラファイン。担当の土屋厩務員と



小島友実の あの馬の STORY

エクストラファイン

「初めて見た時、『エクストラファイン』が綺麗で良くて馬なんだと思ってほんたな。『エクストラファイン』は『スマートカカル』で、素質があるもつと感ひたのを覚えてます」

昨年11月9日の東京競馬場、芝1400m戦で「エクストラファイン」を管理する矢野英一調教師

は、「この馬を最初に見た際の印象を」とう振り返ります。

社台ファームでの育成も順調に進み、昨年9月末に美浦トレセンへ入厩。ゲート試験も一度で合格しました。

「入厩後の動きも良かつたですよ。ただ、『エクストラ』週間前位から、終いがもつぶを感じ見せるようになりましたね。でもペースも力もあつただし、非凡

さを感じさせる所があったので、初戦からの良い競馬をしてくれるのではないかと期待していました。蓋を開けてみれば、「エクストラ」勝ち。好位を進んで直線は早めに先頭に立った馬との叩きあいに負けながらも、勝負根性を見せてくれました」

2戦目は中山競馬場、芝1600mの春菜の花賞に出走しましたが、不利もあり11着に敗れてしましました。

「一番手位で内を回らせてましたが、直線に入つて前が狭くなってしまい、勝負所で動けなかつたのが痛かったです。二桁着順に負けてしまったけど、厩務員

スタッフは、「『エクストラ』の馬の力はいいなんものやな」と話していました」

巻き返しきを田指して出走した3戦

は春菜賞(東京芝1400m)。レー

ス開、矢野調教師は騎乗する後藤浩輝騎手に「こなな指示をしたくない」とか。

「ペースでじっくり、前向もだん辰持ち

がある馬。後ろから行ってもなんに切れる脚はないので、好位で前に壁を作り形でレースをします」

結果は後藤騎手もレース後に「馬の

ていたポジションでレースが出来まし

た」と振り返るのみで、3番手で流れに

乗り、直線もじぶとい伸びて着ました。

レース内容に矢野調教師も、十分な手

応えを感じたようでした。

「慎重で馬場が味方してくれた部分

があるものの、先行馬には不利な流れ

の中でも頑張ってくれました。今後の

ところでも牝馬同士の闘いになり十分に

勝てるチャンスがあると思います」

ただ、「この馬の会員の皆さんは気付いていたと思いまわが、春菜賞のペーパー

クリードで脚を使いながらの周回で、『エ

クストラ』が高めな事が成了りました」

「坂持ちが得意なのはつまりの事です(苦笑)。美浦でも馬が沢山いる時間帯ではなく、少し短い時間に運動する

よつ配慮してますからね」

「これは馬鹿でほんたなのですが。

2戦中甸のある水曜の午後、厩舎を訪ねてみました。ドアノブ前から押込んでいる土屋一久厩務員によると、「馬房では大人しいけど、乗り手が乗るとしています」が入ってしまいます」との事。確

かに、馬房でのトウヘアのエクストラ

は「内臓面も脚元にも心配はない」と飼葉も食べてくれています。欲を言えば、

レースへ行った時にむつ少し落ち着いて歩き立つようになりましたね」と土

屋さんは話していました。

今後いつで、矢野師は伺つました。

「『スマートカカル』があるので距離を伸ばす

4戦目は4月28日の中山の芝1800m戦に出走する予定です(2戦中甸現

在)。レースでは坂を走ると思いますが、良い脚が持続するタイプなので、将

来的にヒタートル線も面白い感じで、

いつもお願いします」

特別上等。極上、ひじの意味を持つ

エクストラのマイペースからか、そのス

タミナに動きをかけ、特別な活躍

を期待してますね。